

【ポスター発表】

特別養護老人ホームにおける相談援助実習生の利用者理解に関する研究 ～実習指導者へのインタビュー調査から～

○ 神戸親和女子大学 氏名 米澤 美保子 (7409)

成清 敦子 (関西福祉科学大学・3384)、橋本 有理子 (関西福祉科学大学・4381)、

竹中 理香 (川崎医療福祉大学・3948)、清原 舞 (関西福祉科学大学・5924)、

酒井 美和 (関西福祉科学大学・7099)、野村 恭代 (大阪市立大学・6252)、

キーワード3つ：利用者理解・相談援助実習・特別養護老人ホーム

1. 研究目的

相談援助職である社会福祉士にとって利用者理解は専門性の基盤となる重要なものであり、社会福祉士養成課程における相談援助実習(以下 実習)は様々な学びの基礎となる。

利用者理解へのプロセスは単純な一本線ではなく、利用者を多面的にとらえるために様々なアプローチを複線で行うものであって決して容易ではない。認知症高齢者など、発信される情報を掴むことが難しい場合、利用者理解は一段と困難となる。学生はこれまでこのような思考で相手を見つめる経験がほとんどないため、実習を進める中で利用者理解という大きな壁にぶつかり、自信喪失になり実習そのものがたちいなくなる者もいる。また、社会福祉の現場において支援の対象者の枠組みが広がってきており、利用者理解の力量がより一層求められる。

利用者理解に関する先行研究は、介護実習や看護実習においては見受けられるが(村上ら 2000; 遠藤 2000; 千葉ら 2008)、社会福祉士養成課程の実習においてはほとんど見受けられない。そこで本研究では、実習施設の中で、理解に困難を示されることの多い認知症高齢者が居住する特別養護老人ホームを対象として、実習生の利用者理解に関する要素を明らかにすることを目的とする。

2. 研究の視点および方法

相談援助実習指導の資格要件を満たした実習指導者を対象に、実習施設において半構造化面接でのインタビュー調査を実施した。調査時間は1時間を目処に実施した。調査者は、本共同研究メンバーである。

調査対象の施設種別は、全て特別養護老人ホームである。調査人数は各施設で1人、計11人であった。調査実施施設は全て同一都道府県内に存在する。

調査実施時期は2015年3月～4月であった。

インタビュー項目は、(1)利用者理解に関する実習内容、(2)利用者理解の到達目標、(3)利用者理解における課題、(4)利用者理解における実習指導者、(5)ソーシャルワーカーの

専門性の5点である。事前に項目を文書にて提示し、調査当日にも調査項目用紙を配布し、インタビューガイドに基づき、ICレコーダを用いて調査を実施した。分析は、ICレコーダで録音したインタビュー内容から逐語録を作成し、KJ法によって行った。

3. 倫理的配慮

本研究は、調査対象者および調査対象者の所属代表者に対して、研究目的・方法・個人情報情報の管理・調査結果は研究目的以外では使用しない旨を文書にて説明し、同意を得た上で実施した。なお本研究は、大阪市立大学生活科学部・生活科学研究科研究倫理委員会の承認を受けた(承認番号14-39)。

4. 研究結果

調査対象者(実習指導者)の属性について、年齢は30代が7名、40代が3名、50代が1名であった。福祉医療分野での勤務年数は、10年未満が1名、10年以上15年未満が5名、15年以上が5名であった。実習指導者年数は、5年未満が3名、5年以上10年未満が5名、10年以上が3名であった。

逐語録から665ワードが抽出された。KJ法によってそれらのワードは「実習生の取り組むべき姿勢」、「利用者理解の手段」、「多職種理解」、「家族を知る」、「潜在的なニーズの発掘」、「プロセスの重要性」、「利用者像の把握」などに分類された。

5. 考察

特別養護老人ホームにおける実習での利用者理解に関する要素が、「利用者理解の手段」「多職種理解」、「家族を知る」、「潜在的なニーズの発掘」、「プロセスの重要性」、「利用者像の把握」、「実習生の取り組むべき姿勢」などであるということが示された。

今後は、本研究で明らかとなった利用者理解に関する要素から、特別養護老人ホームにおける利用者理解のプロセスと、「特別養護老人ホームにおける利用者理解」の定義の提示に向けて研究を進めていく。

*本研究は、神戸親和女子大学国際教育研究センター研究費助成を受けて実施した。

文献

千葉真弓・原田美香・細田江美・楠本祐子・渡辺みどり, 2008, 「介護老人保健施設での老年看護実習における学生の学び」『長野県看護大学紀要』10: 21-32.

遠藤清江, 2000, 「介護福祉士養成における対象者理解の視点」『東洋大学児童相談研究』19: 47-58.

村上信・三富道子・伊藤桜, 2000, 「利用者理解を促進するための実習指導プログラム—人権や人間の尊厳を大切にする視点から」『介護福祉学』7(1): 125-134.